和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori　NPO 法人百年の森づくりの会

公益信託富士フイルム・グリーンファンドの助成により本会報を発行します

2026
10.1
52号

巻頭言……１　／　三峰森の集い報告……２－７　／　会員だより……８－９

中川芳和さん追悼文……10－11

「三峰森の集い」で楽しむ子どもたち

理事長　高岡正彦

三年前から始めた「三峰森の集い」は、秩父市からお借りしている旧大滝小学校三峰分校を利用した森林体験会である。

今年最初の森の集いは、児童扶養手当受給家庭の小中学生と保護者を公募で募った。25名の定員で募ったところ16家庭41名の応募があった。残念だが、抽選を行うことになった。

色々不安もあるだろうということで、参加の子どもと保護者と対面による説明会も行うことにした。保護者の都合に合わせるため、いくつかの説明会会場といくつかの日にちを用意した。面談して、皆さんが大変期待していることがわかった。私達運営側も期待と緊張が高まってきた。更に運営ボランティアも募集して、14名が集まった。その方々と百森スタッフで、ボランティア勉強会を開くことにした。NPO法人彩の国自然学校C's の代表理事羽石貴裕氏に講師を依頼して行った。ボランティアの難しさとともに、和ませ方、場をつくる仕掛けなどを学んだ。

当日、西武秩父駅からチャーターバスで分校近くまで来てもらった。天気が悪く土曜日にもかかわらずさほど混んでいなかった。（翌日は特別な日だったこともあり朝8時の時点で1㎞を2時間かかる渋滞であった）活動メニューは、ナン作り、バードコール作り、気象予報士体験（最高最低気温測定）、両引き鋸・大鋸体験、キャンプファイヤー、盆踊り、森の濾過実験、三峯神社への参拝、流しそうめんと盛りだくさんであった。初対面同士の参加者であるので心配もあったが、子どもたちは夢中になって遊んでいた。子どもたちが遊んでいる中、保護者同士の交流の輪も出来上がり、とてもいい雰囲気が作れた。来年もぜひ参加したいと感想をいただいた。

今年2回目の森の集いは、昨年に続き、児童養護施設若竹ホームの子どもたちである。2度目の子供たちが多く、各々遊びを見つけていた。子どもたちのエネルギーはすごくて、夕食後も講堂ではしゃいでいた。食事の準備は慣れたもので、手際が良かった。今年もかき氷を作り、焼きそばも外の炊事場で上手いヘラ捌きで仕上げていた。リンゴ飴は見事だった。

今年3回目の森の集いは、おやこ劇場川口の皆さんである。総勢38名、百森スタッフ4名でこれまでにない人数になった。キャンプ慣れした親子なので、タープを張ったり、キャンプファイヤ造りをしたり、レクリエーションの進行など手慣れたもので、盛り上がった。昆虫採集も楽しんでいた。おやこ劇場川口とお付き合いのあるシンガーソングライターのたかはしべんさんがサプライズで登場、皆で歌って楽しんだ。

4回目の森の集いは、埼玉県立いずみ高等学校の事業である。夏休みを利用して、平日で行った。初日に分校の補修と薪割りを行い2日目には、11年前に三峯神社敷地内に植えたブナの手入れを行った。日当たりの違いで、成長が著しく違う。先輩が植えたブナを手入れできる事に誇らしげであった。

子どもたちが自分で考えて、面白いことを見つける姿は感動である。ケガなどは心配だが、「やりたいということ」は、見守りやらせてあげたい。未来は子どもたちが作ります。大人は、経験を与えるだけです。伝えるべきことを経験させたいと思っています。「経験は力なり。」です。

「三峰森の集い」　２０２６年度夏の活動報告

副理事長　東　克明

今夏、子供達を対象とした森林体験会を秩父市からお借りしている旧大滝小学校三峰分校で４回行いましたので報告します。

アイスブレーク　グータッチ挨拶

【第７回三峰森の集い】

児童扶養手当受給家庭の親子を一般公募､小中学生と母親７組17人参加。所属様々で出入りはありましたがボランティアが14名百森幹部５人で２泊３日の現地運営。

７/18（土）貸切バスも使って11時前分校集合挨拶・説明・案内。昼食後、バードコール作りと子供達の班つくり。

３日間子供達は調理、かまどの火の番とよく手伝いました。

樹の枝でバードコール作り

野外かまどで火の番

息を合わせて両引き鋸

発酵させてナンづくり

食堂で夕食（カレー）

大鋸（おが）の縦挽き

準備した両引き鋸と大鋸は好評で母親も含め合間にチャレンジ。強力粉を発酵させてナンづくり体験、夕食にカレーと食べました。

雨雲予想でファイヤーは延期、講堂で班毎のスタンツ（歌）発表とボランティアメンバーオリジナルの妖怪盆踊りを全員で踊り、入浴。無事１日目が終了。

全員で妖怪盆踊り

７/19（日）４時頃から１時間程度数種の野鳥がさえずる分校の朝は早い、子供も５時過ぎには起き始め、朝食後三峯神社へのハイキングに出発。徒歩30分で市営駐車場、家族単位などで神社に参拝ビジターセンターで地域の動植物を学んで昼前に分校帰着。校庭で昼食。

スコーン・味噌ポテトも

ハイキング出発前の参加者 17 名

ボランティアも一休み

若手ボランティアと子供達

森の機能（ろ過）実験

スイカ割りドンピシャリ

午後はろ過実験、スイカ割そして竹細工(竹箸とコップ）等を楽しみ、夕食では森の動物鹿・猪肉も体験し好評。マシュマロ焼きを楽しんだ後は、キャンプファイヤーと花火。子供達は最後まで元気。

鹿肉の鉄板焼き

マシュマロ焼き

ファイヤー点火式

花 火

7/20（月）朝食は流しソーメン、その前に毎日の最高最低温度と天気予報を気象係が発表。片付け昼食の後、閉会式では全員が感想発表。個人車・バス等で西武秩父駅で無事解散。

プラバン作り

ソーメン流し

気象係

今回は当会初めての一般公募でもあり、参加予定の親子21名（体調不良で４名不参加）と個別面談会を開催、母親には手伝い不要と伝えました。当日は皆さんが集まり話をしながら、連絡先を交換したり子供の様子を見守ったり、母親にとっても明日につながったのではと思います。ボランティアさんも初めての方もいて、外部講師を招いた説明会（勉強会）を２回開催。熊の目撃情報や渋滞対策を講じながら大きなトラブルもなく実施出来ました、これも参加者・ボランティアの方たちをはじめ、多くの皆様のご支援のたまものです、以下にその概要を記します（敬称、略させて頂きます）。

県ひとり親福祉連合会、フードバンクいるまの動員力で41名（抽選で26名）の申込みがありました。ひなとま食堂、つばさ子ども食堂、だがしカフェ夢はうす、県子供食堂ネットワーク、わっか食堂、かわぐち不登校ネットワーク、樹の下ベースは参加募集チラシの配布。文教大学、聖学院大学、文京学院大学、埼玉県立大学、三井住友海上火災埼玉支社、県山岳連盟、県高体連山岳部門、秩父市協、さいたま市協、久喜市協、大宮労山、真言宗歓喜院、生活クラブ生協（埼玉）、川越工業高校山岳部 OB 会、埼玉大学ワンダーフォーゲル部 OB 会はボランティア募集又はそのためのネットワーク利用。彩の国市民活動サポートセンターにはボランティア勉強会講師紹介で、その講師として彩の国自然学校Ｃ’Ｓの羽石代表理事。さいたま市子育て支援課には児童扶養手当について、県こども支援課にはそのネットワーク活用で、県共助社会づくり課は多くの他団体との交流提供でお世話になりました、有難うございます。三峰森の集い全体への謝辞は後述。

閉会式後　参加者とスタッフ

【第８回三峰森の集い（若竹ホーム）】

児童養護施設若竹ホームの小学～高校の子供達16名、内昨年参加は12名、職員８名と百森側スタッフ７名（２名が日帰り）が分校で２泊３日の体験会を過ごしました。

釣体験、ニジマスは８/１の朝食

河遊び

オリエンテーリング

薪割りで羽釜炊飯の手伝い

調理手伝い

かき氷作り

薪割り

７/30（木）参加者達が５台の車でホームを出発。道の駅果樹公園あしがくぼで河遊び、一部は大血川渓流観光釣場で釣体験。14時頃分校集合、オリエンテーリング。かき氷作り・調理手伝い、薪割り・かまど手伝いなどを行い、夕食はジビエ体験（鹿肉）とカレー。その後花火、今年は２日共夜に自由時間、講堂での子供達のエネルギーに圧倒されました。

講堂での自由時間

花火

デュカ(調味料)を振って

校庭で夕食→

７/31（金）徒歩、三峯神社参拝とビジターセンター見学に出発。暑さの中、戻ってスイカ割、流しソーメンで昼食、かまどでマシュマロ焼き。

分校出発
← 16 人の子供達

ビジターセンター

スイカ割ドンピシャリ→

両引き鋸

↑竹を切り

↑切口にサンダー

仕上り

隙間時間に両引き鋸・大鋸や竹細工（竹箸・竹カップ）

自前の竹カップで流しソーメン→

クラックビー玉

かまどで手伝い

午後は、クラックビー玉・木工体験・調理の手伝いなど、おもいおもいに楽しみ、夕食はリンゴ飴・焼きそば・焼きトウキビ・冷やしキューリなどの屋台のお祭りメニュー。夕闇の頃からキャンプファイヤー、点火式の後は、火を囲んでゲーム。

大声対決では『もりサイコー』と連呼。入浴・プラバン作り・毎夜の振り返り反省会・自由時間で就寝。

8/1（土）体操の後は、樹高測定。クイズで各自高さを申告、お別れ会で当選発表。朝食の後は、片付け・清掃。昼食後お別れ会、職員が作成した今回の動画と写真のスライドショーで記憶をたどり、子供達の来年も来たいの声に嬉しさがこみ上げる。記念撮影後、子供達は5台の車に分乗して、帰路。

ラジオ体操

火の神と弟子達による点火式

←ファイヤー囲んでゲーム
“言うこと一緒やることべーつ”

↑講堂でお別れ会

部屋長から一言↓

樹高測定　水平距離・角度から樹の高さを測る

スタッフへの感謝の言葉

昨年に続き２回目の子供達が８割近く、今年も子供達のエネルギーに圧倒されました、同時に刹那を大事にする思いも感じられた３日間。何より無事にホームに戻って一安心、ボランティアを含む百森スタッフと共に若竹ホームの職員の皆様のお陰と感謝しております。１日だけでしたが、三峰分校へ徒歩10分の地元の方がボランティアで参加し、地元の話をして頂いたのが収穫です。

若竹ホーム職員８名

参加者 16 名

先の第７回とこの第８回三峰森の集いは、“国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金（困難な環境にある子どもを対象とする活動）”及び“コープみらい財団2026年度　くらしと地域づくり助成事業”の助成を受けて実施出来ました、有難うございます。

百森側７名

【第９回三峰森の集い（おやこ劇場川口）＝秩父の森自然体験キャンプ（おやこ劇場の呼称）】

2024年11月にメールを送ってから、やり取りや現地視察を重ね。NPO 法人あそびとアートの体験ひろばおやこ劇場川口と三峰分校での体験会が決まったのが本年５月、情報交換をしながら主におやこ劇場の企画で８/８（土）～10（月）の会が開催された。おやこ劇場側は、公募参加者が日帰りも含め大人13名子供19名、スタッフが６名、百森会員が４名、総勢42名。

歌うたかはしべん

８/８（土）14時前、電車組・車組分校集合。開村式にはシンガーソングライターのたかはしべんさんが駆け付けて歌を披露。夕食は野外竈のカレーを校庭のタープの下で食べ、夜は校舎内で大人が子供を驚かすきも試し。

タープの下で夕食準備

８/９（日）朝会は「離陸準備完了」を歌って１日スタート。午前の遊びの時間はたからさがし、校庭・校舎の隠された宝物（お菓子）を探す。子供達は、率先して手伝いそしてボールやロープで自由に遊びまわる。

午後の遊び時間は、百森側が準備した両引き鋸・大鋸、竹細工、薪割り、木登り体験。始まる前に、百森守谷氏が木工について話。

←確保して木登り

綱引き

縄跳び

テーマソング　離陸準備完了

大鋸、もうすぐ切断

これから磨いてコースター

両引き鋸

百森守谷氏が樹と木工について

合間にスイカ割り、ファイヤー準備。豚汁とうどんの夕食も校庭で。ファイヤー点火の後、火を囲んで午前に練習したダンスを踊る。

参加者父兄は若く、体が動く。急なスコールで花火中止。

竈で豚汁

スイカ割り

男性陣がファイヤー準備

８/10（月）朝はマシュマロ焼き。朝食後、片付け・掃除、子供達は講堂で班毎輪になって掛け合いゲーム。

解散式を経て、各々分校を後にした。

おやこ劇場は助成金も手当てし、事前の交流会を３回行い参加者の結束は固く、準備も万全。昔、子供達主導で実施していたキャンプの経験者が親となって参加していたので、慣れてもいて見ていると同窓会気分もあり、老若男女和気藹々の雰囲気でした。おやこ劇場の皆

マシュマロ焼き

ファイヤー点火式

ファイヤー囲んでダンス

指導者も慣れたもの

子供達が輪になってゲーム

様のおかげで楽しく過ごさせて頂きました。有難うございます。

【第10回三峰森の集い（いずみ高校山岳部）】

バスで到着したいずみ校生

県立いずみ高校山岳部は当会の会員でもあり、三峰森の集いも３回目合宿でも活用しているので多くを任せられる。

８/19（水）10時いずみ高校山岳部員11名が乗合バスで到着、顧問の先生２人、百森２人の15名でスタート。早速校舎裏の片づけ掃除を行う、高校生はよく働く。昼食後クサビも使って薪割りを行う。夕食準備も生徒達でシチューとかまどでのピザ焼き。夕食後花火、明日のためのサンドイッチつくり。

パイプの片づけ

８/20（木）生徒も5：30起床、肉うどんで朝食。片付け、生徒達は全ての荷物を背負い、百森東と12名で徒歩出発、顧問２人と高岡は材料運搬などで車移動。2015年三峰公園近くの三峯神社社有地にいずみ高校山岳部がブナ苗を植林、今回は枯れた苗10数本のネット撤去と活着した14本のブナに新たに鹿対策のネットを設置。

校舎の外壁掃除

作業終了後、三峰公園の頂上（浄水池付近）でサンドイッチの早い昼食、ビジターセンターまで移動し解散、生徒達は9：20市営駐車場発のバスで帰途。百森２人は分校に戻り、片付け。やはり高校生の機動力で作業は素早く進む、いずみ高校山岳部の皆様有り難う御座いました。

調理も生徒達

薪割りもお手の物

竈でピザ

明日のサンドイッチ作り→

このような「三峰森の集い」を開催出来るのも、維持・整備費は当会負担ですが、秩父市から無償で旧三峰分校を貸与して頂けるからで、市及び大滝支所には感謝申し上げます。分校での安全性向上では、秩父市消防本部南分署のご指導その対策工事では豊田防災に大きく貢献頂いています。「三峰森の集い」の各種準備では富士フイルムグリーンファンドの助成金を利用させて頂いております。共に、

朝 食

装備一式背負って出発

旧いネットを回収

整備作業を終えた 11 人

一番元気なブナ

ネット新設

有り難う御座います。

地元三峰地区の皆様には、騒音や煙などでご迷惑をおかけしているかもしれません、今後も事故・災害などの無いよう充分留意すると共に、事業のご説明に努めて参ります。

三峰公園頂上で昼食

会員だより

不思樹妄草　「親ガチャ」

会員　大池靖司

先ずこの写真、斜めになった白樺が生えています。その幹の中腹あたりに、なんと背丈１ｍほどの松、多分エゾ松、が生えているのです。加工もしていないし、勿論フェイクでもありません。写真の日付けは2021年９月13日。札幌近郊の無意根山（1460m）に向かう登山道でみつけました。

無意根山山頂・蝦夷富士（羊蹄山）が見える

白樺の幹にエゾ松が生えている

その日は平日、元山登山口の駐車場には１台の車もなかった。山地図ではここから山頂まで約３時間半。エゾ松、トド松、水楢など雑木の森林帯の中をひたすら登ると、緩やかな傾斜になり、クマザサ、低木が広がる千尺高地にでる。登山道脇に、傾いて立ち上がった白樺が笹薮から取り残されたように立っていた。台風か大量の雨に根がえぐられて傾いたか？さして気にもせず、歩こうとしたら、笹薮のざわつきの中から「ふじさん」と聞こえたような気がした。ただ、「ふじさん」が山名にしろ人名にしろここでは関係なさそうなので、無視するように山頂を目指した。

もう一つの登山口、薄別へ下りる分岐まで来るとあとは低木の茂るなだらかな尾根道だ。振り返ると、ジグザグにたどってきた道の向こうに羊蹄山1898mがみえる、、、、。ふじさん、富士山、蝦夷富士、、、、羊蹄山、まさか、、、、。などと思いをめぐらしながら、何とか山頂の三角点にたどり着いた。薄曇りながら、標識の向こうに均整とれた羊蹄山があらためて見える。プレートには蝦夷富士がペイントされている。ここは羊蹄山がコニーデ型にみえる絶好のカメラスポットなのだ。写真を１枚とって、バナナをほおばり、先ほどの声の主を探そう

と急いで戻った。

下りの風景は新鮮だ。上りで気づかなかった小さな池も左に見え、北方角には無意根山より20mほど高く、形状のよく似た余市岳も同定できる。いわくの白樺も下り坂の見下ろすアングルからだとすぐみつかった。しかし周りに声の主となるようなものは何もない。静かだ。
その時「何か探し物ですか？」と確か頭上の方から声がした。小さく風邪声のように聞こえた。こちらもとっさに「時計を」と言ったものの、実際は時間を見ようとしていたのだ。見上げると、背たけ１m足らずか、松の木が傾いた白樺の幹のど真ん中に。びっくりです。

「今朝、ここを通ったとき、ふじさんと発したのは、君？」と問うと、一時おいて、「そう。ふじさん、でなく、おじさん！キジの巣が近くにあったので」と。なんと我々は話し合えるのだ。
「そこから蝦夷富士は見えるのかい？」
「羊蹄山はみえない。本州にある富士山は倍くらいの高さ」と言う。多少ちぐはぐな答えだが、、会話は繋がっている。面白い!!　こちらも用をたし、腰を降ろして長話に備えた。
話してみると、人社会の出来事もよく知っている。富士山のオーバーツーリズムのことさえ知っている。どうも情報源は「新聞」ならぬ「風聞」らしい。「親ガチャ」という言葉も、子どもは親を選べないという意味も知っていた。
白樺の幹のささやか窪みで発芽した出自についてはやはり気にしている。人の年齢でいえば思春期ごろなのだろうか？そんな松の木を、盆栽をいだくように抱える白樺にきいてみた。しばらく待ってみたが、何にも返ってこなかった。
そこで無意味（アッカサ）な質問と分かっていたが、松の若木に、エゾ松なのかトド松なのかを尋ねてみた。松の球果だと、モミ属のトド松なら下向き、唐檜属のエゾ松なら上向きとか分かる。あと、枝振りや葉形、木肌などからある程度マツの種類を特定できるのだが、若木にとっては、人が勝手に付けた木の種類など、どうでもよいこと。それより何故自分が大地から離れて、こんなきわどい処に生えているのかわからないのだ。

今の思いを聞いてみると、「旅してみたい。もっと仲間たちと近くで話してみたい。何とかして大地に根をはりたい、宿り木のようには寄生で一生を終わりたくない、このまま自分が成長を続ければ白樺をいずれ踏み倒すことになる」と。こんな話を宿主の白樺と続けてきて、互いに口きかなくなったと言う。
「いや、君は旅しなくていい。しっかりと根を張っていれば、周りが動いてくれる。お主が動くと世界がややこしくなる。宿主も君を盆栽のように可愛いく想い、養分を分け与え、世話をしていたのではないか？それに、宿り木だって、後ろめたさをもって寄生してはいないだろう。陽当りのいい場所で自生を謳歌しているのではないか？君にとっては、根を張ったところが大地だ。生まれたそこで命を謳うのだ。苔がむすまで謳うのだ。謳い続ければ、宿主を踏み倒すということもなく、いつか大地にゆっくりと根を這わせられるだろう。倒木更新だ”」
「？　結局、踏み倒すことに」
「違う。自然な営みだ。時間の積み重ね、年月の厚みが全然違う、、、、。陽もかげってきた。帰る時間だ」
「おじさんには時間がないんですか？あの、、、社会の窓があいてますけど」
突然、寒気を感じ、目が覚めた気がした。空気の流れが変わった。
「樹木の長い時間には付き合いきれないからなあ、、、、、、、、ありがとう。あばよ」
駐車場までは１時間弱。ファスナーを締め、下山ルートを確認して帰路についた。

技工士・中川芳和氏の思い出　　理事長　　高岡　正彦

中川さんと出会ったのは、秩父市影森にある東京大学演習林影森苗畑だったと思う。そこは、仁田小屋建設資材の皮剥きと太鼓落とし（幅30cmに切り揃える）製材の作業現場である。そのあと廃校になった大滝村立光岩小学校の校庭をお借りして乾燥とノッチ（ログを積み上げるための刻み）造りそして仮組みをした。会報６号（2003）にあるように、作業がなかなか進まない状況に中川さんは心配でしょうがない、それに対して棟梁の野澤氏は「俺は一級建築士だ、俺に任せろ」と言って諌めていたのを覚えている。会報７号（2004）にはなんとか完成した仁田小屋を喜ぶ皆の言葉が、掲載されている。中川さんは、仁田小屋が大好きだった。仁田小屋ができてからの和名倉ワーク（和名倉山での植林作業）を最高の楽しみにしていた。付近には仁田小屋の頭や仁田小屋沢という名があり、山の名、沢の名が付く前から仁田小屋があったということだろうとも話していた。

①チェーンソーの扱いが技工士的で、鮮やかに仁田小屋の棚を作り上げた。(2009)
②刃物の扱いもプロ級、断熱材で回廊に飛び出す障害物のガードも手早く作った。(2009)
③仁田小屋沢にワサビを自生させようと苗を持ってきたこともあった。(2010)
④仁田小屋のストーブの煙突は暖房効果を高めるため、横に長く吊り下げていた。しかし、途中で薪のタールが垂れ続けたので、煙突を最短の窓から外に出すよう付け直した。(2011)
⑤高校生へのチェーンソーの扱いの指導では、力の入れ加減、傾きなど、とても丁寧に説明していた。(2012)

①

②

③

⑤

④

④

病魔に襲われたことがわかったのは、いつのことだったか？というのも、その後もワークに顔を出してくれていたし、仁田小屋まではきついので、見送りにだけ来た、という日もあったからだ。和名倉山の仁田小屋に大きな想いを込めた３人（初代理事長・内藤氏、長瀞の棟梁・野澤氏、秩父の技工士・中川氏）がいなくなり喪失感でいっぱいです。和名倉山にあと２つの小屋（山頂直下の惣小屋沢源頭付近・二瀬尾根の水平道水場付近）を作りたいと思っていたが、諦めました。今は、仁田小屋を精一杯活用し、将来につながる道筋を作りたいと思っています。十年後の2036年が一つの目標です。（和名倉山の標高が2036mです。）見守っていてください。この10年間の歩みは、私がそちらにいった時に存分に話します。改めて、故中川芳和氏のご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

※　中川さんの記事が会報に掲載されています。HP にすべて載っていますのでご参照ください。
会報第６号　建つや建たざるや　　会報第 26 号　水力発電機顛末記
会報第 25 号　内藤勝久氏追悼　　会報第 47 号野澤和雄氏追悼

中川芳和さん　逝く

常務理事　　小林　公彦

今年２月、仁田小屋建設の立役者中川芳和さんが亡くなった。2003年に完成した和名倉山仁田小屋は、中川さんのモデルハウスの作成から始まった。光岩小学校での仁田小屋ログハウスの加工、仮組の前、製材された木材の皮むきを家内と二人参加して、中川さんの蘊蓄を聴きながら作業を進めたことを想い出します。

８月から９月にかけ、光岩小学校での加工、仮組作業において、中川さんは指揮をとられ、延べ600名が参加して12段ログハウスの仮組を創り上げた立役者でした。そして、10月から11月にかけて故野澤和雄棟梁と共に現地での本組作業の指揮のもと、11月24日仁田小屋が完成の運びとなりました。

その後、2013年にガンが見つかり、手術をされ、投薬治療をされていましたが、治療を続けている中でも、仁田小屋だけでなく、長瀞宝登山の作業にも色々ご尽力いただき、長瀞の植林作業から苗畑、下草刈りにも毎年参加いただきました。また、2024年スタートさせた三峰分校の活動にも足を運んでくださり、若い世代へ森づくりの大切さをお話ししていただいておりました。

中川さんは、秩父地域の自然・文化は基より、動植物に精通していて、機会あるごとに教えていただきました。いつもその時はウィスキーを飲みながら、語り合ったことを懐かしく想い出します。

中川さん、仁田小屋での作業大変でしたが、あの時楽しかったですね。本当にありがとうございました。心から感謝申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

2003 年光岩小学校で仮組作業を終えて
前列中央が中川さん

2017 年長瀞宝登山下草刈り
前列左から二人目が中川さん

2012 年秋仁田小屋
前列右から二人目が中川さん

仁田小屋の一夜

副理事長　　東　克明

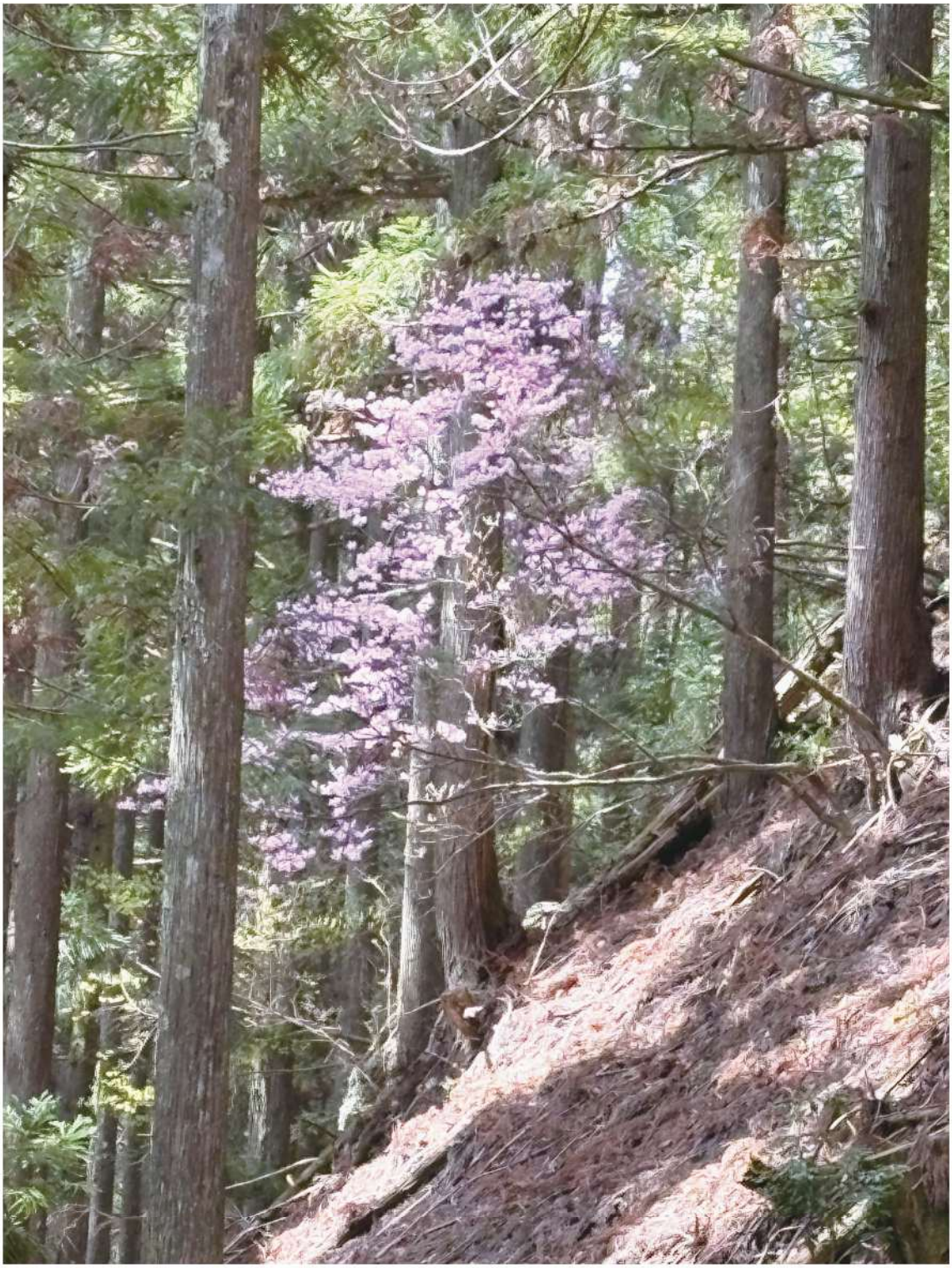
外は暗闇、鹿の目だけが光っている。他のメンバーはいびきもかいているが、アルコールのせいか中川さんは饒舌になっている。私も含め最後の２・３人が薪ストーブを囲んで、うとうとしながらそれでも話が弾む、中川さんは私にとって３歳上の先輩だが、その博識は私にとっては知らないことばかり、人からの又聞きではなく自分で確かめている、何より本質を突き詰めたいとの思いが伝わる。私は聞き役でもあり、薪をくべる役でもある。

秩父の山と山小屋そして山の人々、車や時計も含めたいろいろな機械、山の道具や装備の話など具体的で数値も交えて細かく説明する。何より機械や道具の手入れの話は微に入り細に入り、特に刃物は材質から研ぎ方まで実演しながら伝えてくれる。

どちらかというと使えれば良いと安物を選ぶ私とは違い、中川さんは細部の機能も大事にしている。この夜は樹の枝まで切れそうなシャープなナイフを持ちだして、木片で切れ味を確かめながらと丸ヤスリで研いで見せてくれた。３時間以上話しているのに同じ話が出てこない、よほど経験と知識のストックが大きいのだろう。

用足しから戻ると再開、でもどちらともなく「そろそろ寝るか？」。

中川さんの思いが詰まった仁田小屋で、中川さんと薪ストーブを囲んで又話を聞きたいと思うのは私だけではないかもしれない。中川さん、有り難う御座いました。ご冥福をお祈り申し上げます。



和名倉山仁田小屋尾根の山桜

和名倉百年の森　第52号 2026年10月 1 日発行
発行者：ＮＰＯ法人百年の森づくりの会　高岡　正彦

ＮＰＯ法人百年の森づくりの会事務局
〒336-0015　さいたま市南区太田窪2034-1
TEL　080-6567-2152
http://www.100nen-forest.org/　e-mail：info@100nen-forest.org